

風治八幡宮

川渡り神幸祭

令和5年5月20日(土)・21日(日)



左：今年1番山笠をつとめる下伊田地区

下：川渡り青年友志会の競演会



【祭りの起源】 永禄年間(1558年～1570年)に疫病が流行し、氏子一同が平癒祈願のお礼として山笠を建立したことに始まると伝えられています。境内には祇園社があり、いつの頃からか二社の祭りが一つになり伝承したと考えられています。

【祭りの様子】 お祭りの獅子楽の後、大神輿が階段を下り、白鳥神社大神輿と11基の幟山笠と合流し、川へ向かい神輿に続き、山笠が川に入ります。曳き手の掛け声と山笠の囃子が響き、指揮者の采配と水しぶきが陽に映えます。1時間ほど川で繰り広げられる祭りのクライマックスです。お旅所で一泊します。

【県の5大祭り】 福岡県指定無形民俗文化財第1号に指定され、県の5大祭りの一つとされています。

【風治八幡宮大神輿】 平成21(2009)年に京都で改修した60人曳きの日本最大級の大神輿です。「みこしをかつぐ会」は昭和50(1975)年に結成されました。

【幟山笠】 幟山笠は11基です。1日目は境内下に集合して馬連(バレン)を立てます。ガブリ(山笠を激しく揺らすこと)と水かけは山笠の花形です。11地区の若手の代表が集結する「川渡り青年友志会」は平成7(1995)年に結成されました。

【獅子楽】 天正年間(1573年～1592年)に動乱でこの地の神社仏閣が消失し、社殿再建時に奉納したのが始まりとされています。平成13(2001)年に地区全体へ範囲を広げ、上伊田西地区獅子楽保存会となりました。「獅子が舞わねば神輿が動かぬ」と言われています。